

# 院内感染 対策だより

第 1 3 号

平成17年1月

・機能評価受審に向けて 一質問形式③一

院内感染対策チーム（ICT）発行

# 病院機能評価受審に向けて

## — 感染対策に関する問題 ③ —

昨年11月12日に開催した院内感染対策講習会には、約120名の参加があり、皆さんの感染対策によせる熱い思いを感じました。今回は、病院機能評価の受審直前対策として、前2号に引続き特集号として問題を多く掲載したので、業務等の再確認をおこなっていただけたらと思います。

### 問題

(下の囲みから当てはまるアルファベットを選んでください。)

#### 《院内感染対策の基本編》

院内感染の発生を防止することは、感染原因の病原微生物の特徴を十分に理解し、( ① ) を把握し、その遮断を行なうことが感染対策の基本となります。そのためには、全ての患者様の( ② )・汗を除く分泌物、排泄物、損傷した皮膚、粘膜は、感染のリスクがあるものとして取り扱うことが重要で、これを( ③ )といいます。また、これを基に、病院感染においては感染経路別予防策を行う事も重要であり、経路別として( ④ )、( ⑤ )、( ⑥ )があり、院内感染対策として重要な課題です。( ④ )として代表的な疾患は、( ⑦ )、O-157などがあり、予防策として、スタンダードプリコーションの概念にある適切な手洗いや、( ⑧ )、エプロンの装着により接触伝播を遮断します。

( ⑤ )として代表的な疾患は、( ⑨ )、マイコプラズマ肺炎などがあり、咳やくしゃみ、会話などによる飛沫粒子によって伝播します。患者様から1M以内の距離で医療行為をおこなう際は、( ⑩ )を着用することが重要です。

( ⑥ )として代表的な疾患は、( ⑪ )、麻疹、( ⑫ )があります。この疾患は飛沫核粒子が $5\mu\text{m}$ 以下と小さく、長時間空気中に浮遊しているため、特別な空調と換気が必要となります。医療従事者は、呼吸器防護策として( ⑬ )を装着しての接触が必要となります。また麻疹、( ⑫ )に関しては、あらかじめ自己の( ⑭ )価をチェックし、( ⑮ )接種を受けておくことがより重要です。

#### 《選択語句》

- |                  |           |            |
|------------------|-----------|------------|
| a. アウトブレイク       | b. N95マスク | c. ワクチン    |
| d. 空気感染          | e. MRSA   | f. 水痘      |
| g. 清水医師          | h. マスク    | i. 感染経路    |
| j. スタンダードプリコーション | k. 抗体     | l. 体液      |
| m. 接触感染          | n. 手袋     | o. インフルエンザ |
| p. 肺結核           | q. リンク    | r. 病院長     |
| s. 飛沫感染          | t. 院内感染対策 |            |

## ご存知ですが 「咳のエチケット」

ディズニー社主催の“全米最優秀教師賞”を受賞したロン・クラークさんが書かれた「あたりまえだけどとても大切なこと」の本の中には、ルールとして『口をふさいで、咳やくしゃみをしましょう』とあります。

この本は、子供のためのルールブックとして、人間の生き方や他者との関わり方、人生の楽しみ方に関して書かれております。今の多くの子供たちは、一見あたりまえのことであっても、そのあたりまえが、誰からも教わっていないそうです。

本の中でも「いい歳の大人が、人まえで口をふさぎもしないで咳やくしゃみをするのを、目の当たりにした。それをかぶった彼女は、飛沫の雲におおわれ、毛布をおおったようにつまれ、『お気の毒に』と思った」とあります。私たちもどうですか？ 咳やくしゃみをする時は、手またはハンカチ、タオル、ティッシュでしっかり口をおおい、また、その後にはできるだけ早く手を洗うことが大切です。「手を洗わなければ私たちが触れるすべてのものにバイ菌やウイルスが付着するから」と書いてあります。

これからの時期は、インフルエンザや肺炎等の飛沫感染が流行する季節です。今一度、ご家族の方々、患者様に予防教育として「咳のエチケット」をご指導ください。

### 《当院の感染対策に関する組織体制編》

当院には、院内感染対策委員会（ICC）があり、月1回は開催されています。その委員長は、（ ⑯ ）が務めています。その下部組織として、院内感染対策チーム（ICT）が活動しており、各部署からの問題解決や検討を行なっています。このICTの委員長は、（ ⑰ ）が務め、メンバーは各部署から構成されています。また、看護部には現場の教育、指導、監督相談役として（ ⑱ ）ナースがいます。各部署における感染対策の悩みや困ったことなどは、ICTメンバーや（ ⑲ ）ナースをとおして、ICTやICCへ意見の吸い上げを行い、検討しますので、皆さんの部署にいるICTメンバーや（ ⑳ ）ナースを今一度ご確認ください。

また、12月に改訂した（ ㉑ ）マニュアルには、入院患者様が感染症に発症した際の報告体制が記載してあります。特にMRSA、結核、疥癬感染患者発生時の対応がフローチャート化されています。皆さん、ご一読して、（ ㉒ ）を防止しましょう。

※選択語句は前ページにあります。

□ 解答は次ページにあります。

## 感染対策に関する問題 ③ 解答

### 《院内感染対策の基本編》

- |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① i | ② l | ③ j | ④ m | ⑤ s |
| ⑥ d | ⑦ e | ⑧ n | ⑨ o | ⑩ h |
| ⑪ p | ⑫ f | ⑬ b | ⑭ k | ⑮ c |

### 《当院の感染対策に関する組織体制編》

- |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑯ r | ⑰ g | ⑱ q | ⑲ t | ⑳ a |
|-----|-----|-----|-----|-----|

## 編集後記

今年2月より院内感染対策チーム（ICT）の一員となりました。まず、知ることが大切と考え、基礎知識を得るために『病院感染予防ハンドブック』を係内に配布し、自己学習後“院内感染だより・第11号”の問題に取り組みました。内容は難しくわからないことばかりでしたが、一人一人医療従事者としての意識があることを感じました。

11月、行われた院内感染講習会の中で話されたように、**油断のSYW** S：知っている、Y：やっている、W：わかっている に陥らないように、**安全のためのABC** A：あたりまえのことを、B：馬鹿にしないで、C：ちゃんとやらなければなりません。そのために職種にあった感染対策を ICT の一員としてできるように努力していこうと思います。

## 編集委員

- |                |                |               |
|----------------|----------------|---------------|
| 委員長 清水 哲朗（外科）  | 委員 長堀 毅（脳神経外科） | 委員 川崎 聡（内科）   |
| 委員 國谷 等（内科）    | 委員 矢地 弘子（看護科）  | 委員 関 千鶴子（看護科） |
| 委員 村田美代子（看護科）  | 委員 谷畑 祐子（看護科）  | 委員 小路 聡美（検査科） |
| 委員 山田 悦子（リハビリ） | 委員 加藤 貴子（薬剤科）  | 委員 田中 京美（医事課） |
| 委員 高野 弘文（事務局）  |                |               |

### 院内感染対策だより 第13号

発行責任者 清水哲朗（ICT委員長・診療部長）  
発行日 平成17年1月1日  
発行所 氷見市民病院 院内感染対策チーム（ICT）